

経営比較分析表（令和3年度決算）

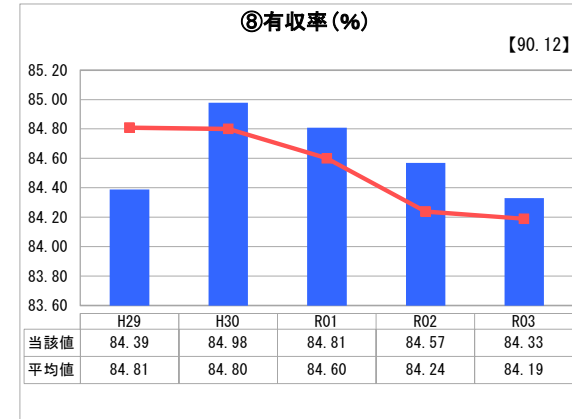
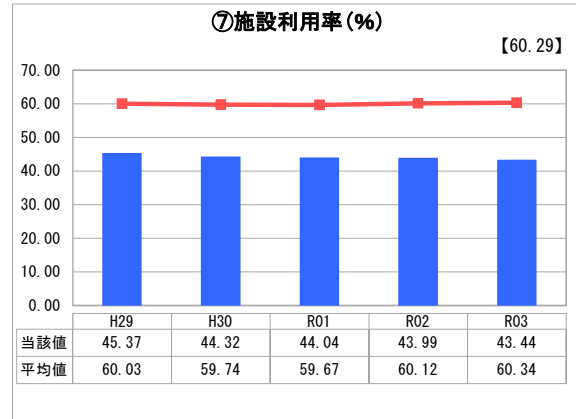
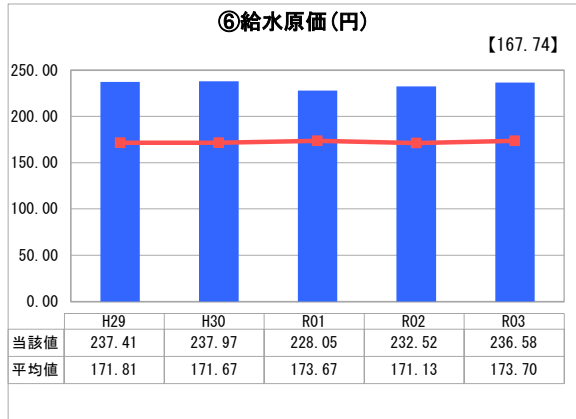
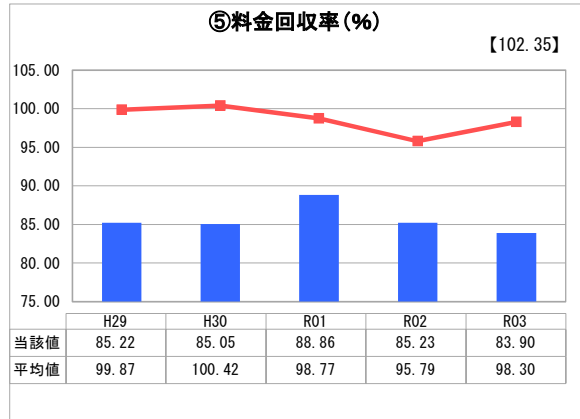
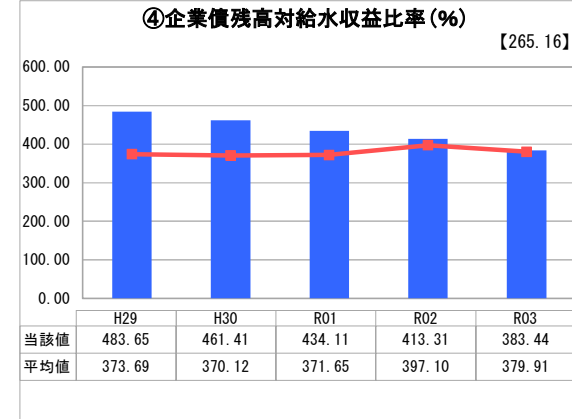
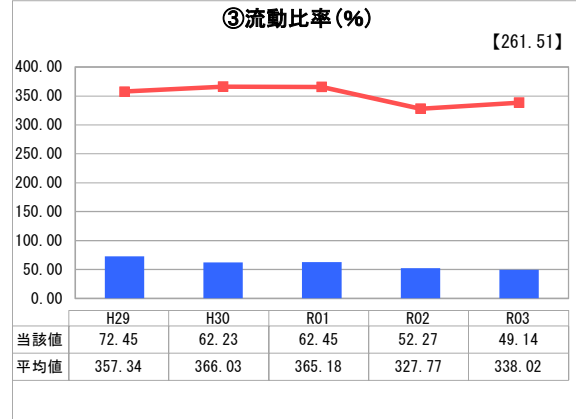
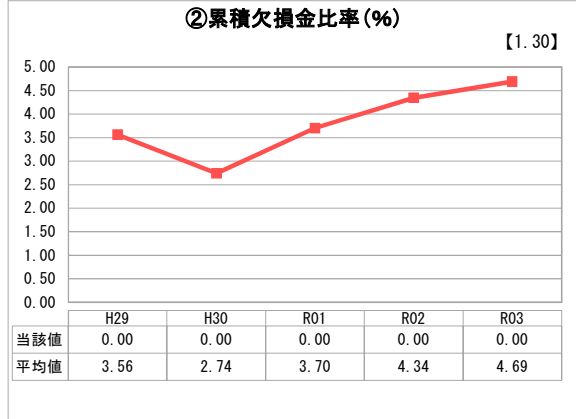
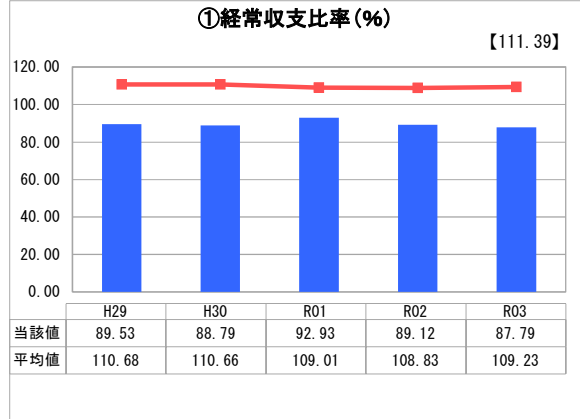
神奈川県 三浦市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	74.00	99.99	3,113	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
41,817	32.05	1,304.74
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
41,568	32.05	1,296.97

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率100%未満、流動比率100%未満であり、企業債残高対給水収益比率も類似団体内で高い水準、料金回収率は100%未満の水準となっています。平成14年度以降水道料金の改定を行っていないこともあり、現時点の指標からは大変厳しい経営といえます。

決算状況を経年比較すると、給水収益の減少傾向、現金の減少傾向が見られることから、早急な改善が必要です。

給水原価が類似団体内で高い要因は、地形的、水源的な事情から受水費及び減価償却費の占める割合が高い点にあります。

有収率向上に向けては、漏水調査による漏水の発見のほか、老朽管更新率の向上を図る必要があります。

施設利用率が低い要因は、過去において施設整備を行った際の想定給水人口に対し現状の給水人口が大きく下回ったことによるものです。

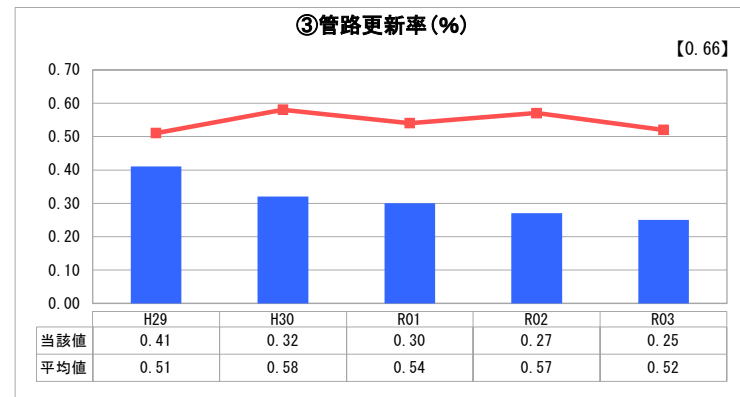
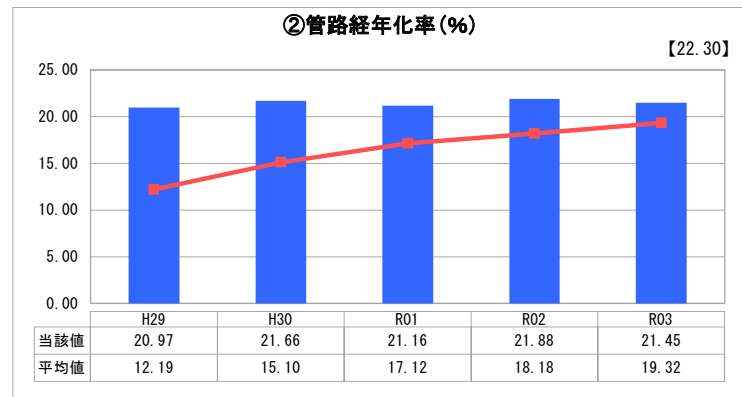
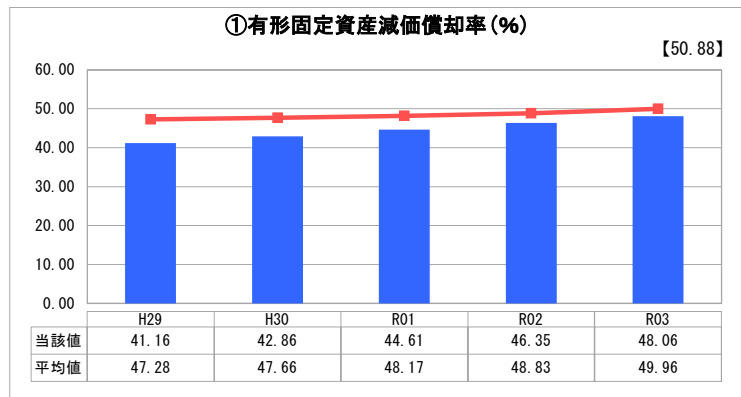
以上の対策として令和2年度に策定したアセットマネジメント、基本計画及び水道ビジョンでは、水道料金改定による給水収益の増加、老朽管更新率0.5%以上とする管路更新計画、予測した将来の使用水量の減少に合わせた施設のダウンサイジング等を反映しています。

2. 老朽化の状況について

管路経年化率が類似団体内で高い水準になっている一方、管路更新率が類似団体内で低くなっていることから、管路の老朽化が進んでおり、更新が進んでいないことが分析されます。

令和2年度に策定した三浦市水道ビジョン（経営戦略）では、管路更新率0.5%以上を目標としており、目標達成に努めます。

2. 老朽化の状況



全体総括

今後、災害対策や老朽施設更新のための整備費が見込まれる一方で、平成16年度から給水収益の減少が続いており、経営の安定化を図る必要があります。

このため、安全な水の安定供給を前提として、水道事業の将来100年間を推計した結果を基に、直近10年間の実施計画として、令和4年度に改定率26パーセントの料金値上げをすることとした三浦市水道ビジョン（経営戦略）を令和2年度に策定しました。

この水道ビジョンの実現に向け、三浦市上水道事業審議会へ「水道料金の改定に関する事項について」を諮問して、改定時期や改定率について頂いた答申を反映して、令和4年7月から経過措置として改定率約10%、令和6年4月より改定率約26%の料金改定となる条例改正が議決されました。これにより、経営の健全化を図り、安全な水の安定供給に努めます。